

令和7年度 朝日小学校 後期学校評価結果・分析・改善策

2P以上プラス→赤 2P以下マイナス→グレー

		上段：教職員 中段：児童 下段：保護者	前期 A+B	後期 A+B	A	B	C	D	分析	今後の重点取組・方策
1	全児童	子供たちは、学校で楽しく過ごしている。	100	100	33.3	66.7	0	0	○AB評価が高く、特に保護者の評価が大きく上がり、95%を超えている。児童の学校の様子を見たり、聞いたりしての評価が高く、学校全体での取組、学年・担任・級外の連携も良かったと思われる。授業や行事ではめらレターの活用、学年会の充実、学年会以外でも授業や生徒指導の話をしていること、先生方の関わりによって児童が選択して関われるようになってきたこと、できる、わかる授業のため、先生方が工夫していること、嫌味の活用、読書の取組、持久走などの行事と様々な教育活動を楽しんで行っていると考えられる。	
		学校は楽しい。	90.9	91.7	44.3	47.4	6	2.3		
		お子さんは、学校は楽しいと思っている。	92.4	95.6	48.9	46.7	4.4	0		
2	児童	子供たちが、課題解決に向け、自ら考え行動できるよう指導している。	100	100	66.7	33.3	0	0	○教員の意識は高く、前期と同じ割合でのAB評価となっている。教師の働きかけによって児童の進んで取り組むことができるようになってきているとの意識が高まっている。また、校内内訳を見ると、前期はA評価が46%だったのに対し、後期は37%と9%下がっている。 ▲保護者はAB評価の%としては下がっているが、○前期の評価が22.4%だったのに対し、後期は27.6%に上がったことを踏まえると学校での取組が児童を通して保護者に伝わってきていると思われる。これからさらに子どもたちが「自分から考え、できた、分かった」につながるよう授業を改善していく必要があると考	・児童の自ら考え、行動している姿を可視化し、児童と保護者に対しさらに発信していく必要がある。3学期から教室内に児童の成果を写真や言葉で掲示すること、学年だよりや学校だよりでも継続して「自ら考え行動している様子」に特化して発信していく。
		どの学習も自分から進んで考えたり、取り組んだりしている。	85.7	87.1	37	50.1	10.6	2.3		
		お子さんは、自分から考え行動する力が身についている。	87.4	86	27.6	58.4	12.3	1.7		
3	児童	子供たちが、気持ちのよいあいさつができるよう指導している。	100	100	61.1	38.9	0	0	○前期との比較でみると、保護者のAB評価は1.6%増となり、特にA評価については12%増加した。 ▲児童のAB評価は4.1ポイント減となり、C評価の児童の割合が7.7%から11.9%と増加する結果となった。 2学期は挨拶運動の取組を重点としていたが、上の結果になったことから、挨拶に取り組む児童とそうでない児童に差が生まれていることが想像される。発達段階に応じて、なぜ挨拶をするのかなどの本質的な指導が図られるようになっていく必要がある。	・3学期は「感謝」を重点として設定している。「おはようございます」や「さようなら」などの挨拶とともに、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えることの大切さも指導していく。挨拶をする側の気持ちと、された側の気持ちの両面をとらえ指導していくことで、挨拶の深い理解につなげていく。
		自分から進んであいさつをしている。	89.9	85.8	52.7	33.1	11.9	2.3		
		お子さんは、家庭や地域であいさつをしている。	83	84.6	34.6	50	13.7	1.7		
4	児童	子供たちが、相手を大切にしたい思いやりのある温かい言葉で話せるよう指導している。	100	100	77.8	22.2	0	0	▲児童の肯定的評価は、9ポイント微減となった。 授業中などのかかわりに関して、教職員の言葉遣いへの意識が高まっているが、児童の意識までは改善されていないようである。普段の友達同士のかかわりでの言葉遣いや他の大人とのかかわりでのふさわしい言葉遣いについて、今後も継続的な働きかけが必要である。	・3学期は「感謝」を重点として設定している。いろいろな人とかかわりの中で生活をしていることを実感し、互いに「ありがとう」と伝える場面を意図的に設定する。その際には、どのような言葉で伝えとよいかを考えさせ、「思いやり」の視点に結び付けていく。学校行事や学級での1年間のふり返りの中で、全校の共通実践にしていく。
		相手を大切にしたい温かい言葉で話している。	92	90.1	36.7	53.4	8.7	1.2		
		お子さんは、相手を大切にしたい温かい言葉で話している。	85	85.5	23.7	61.8	12.8	1.7		
5	児童	子供たちが、いじめられたい無視されたいすることなく安心して過ごせるよう指導している	100	100	72.2	27.8	0	0	○児童のAB評価が5.6%増、保護者の割合も6.9%増という結果であり、教職員も児童が安心して過ごせるように意識して指導してきたことが伺える。 ▲全体的な評価は改善傾向にあるが、児童C評価は10%を超えており、アンケートや観察、面談を通して、いじめが懸念される案件を見落とさず、今後も丁寧に対応していくことが大切である。	
		いじめられたい無視されたいすることなく安心して過ごしている。	84.1	89.7	62.5	27.2	9.5	0.8		
		お子さんは、いじめられたい無視されたいすることなく安心して過ごしている。	91.8	98.7	58.8	39.9	1.3	0		
6	児童	子供たちが、感謝の気持ちをもって給食を残さず食べるよう指導している。	100	100	72.2	27.8	0	0	○教職員肯定的評価が100%、児童の評価が95%という結果であり、感謝の気持ちを持ち、毎日の給食を残さず食べようとして意識して指導してきたことが伺える。保護者の評価も2ポイント増加した。 ▲前期に引き続き、給食を残さないための工夫として、量を調整するなどしてきたことで、多く食べる児童とそうでない児童に差が生まれている学年もある。児童の実態に合わせて、配膳の仕方や時間の確保など、さらなる工夫をしていく。	
		感謝の気持ちをもって、給食を残さないように食べている。	96.2	95.5	63.9	31.6	3	1.5		
		お子さんは、感謝の気持ちをもって食べている。	86.6	88.6	33.8	54.8	11	0.4		
7	児童	ねらいを明確にしたわかりやすい授業を行っている。	100	100	50	50	0	0	○教職員AB評価が100%、児童評価が92.1%、保護者評価が89%という結果であり、保護者の割合が2.4%増加した。学年会を通して教材研究をしたり、効果的な手立ての情報交換を行ったりして、児童が「わかった・できた」と実感できるように意識して指導してきたことが伺える。 ▲AB評価は改善傾向にあるが、児童C評価は10%弱ある。個々の学習状況を見取り、個別の指導などを行い、改善が図られるように努めている。	
		授業はわかりやすい。	91.2	92.1	50.4	41.7	6.8	1.1		
		お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	86.6	89	32.4	56.6	8.8	2.2		
8	児童	図書館を活用したりして、読書活動や読書指導の充実を図っている。	100	94.4	44.4	50	0	6.6	○教職員AB評価が94.4%であり、前期から6%弱減少しているが、児童評価5.8%増、保護者評価10.9%増の結果となった。教職員の読書指導は継続して行うことで、家庭での読書の取組が少しずつではあるが定着していることが伺える。 ▲児童評価、保護者評価ともに改善傾向ではあるものの、まだ十分とは言えない。教職員は、児童に読書の良さを伝えたり、読書時間を確保したりしているが、児童が進んで読書に親しむことは不十分であると考えられる。	
		本を借りて、朝読書の時間に進んで本を読んでいる。	74.2	80.4	36.6	43.8	14.7	4.9		
		お子さんは、週末読書の日に読書をしている。	54.9	65.8	36.4	29.4	16.7	17.5		
9	児童	家庭学習に取り組む習慣が身につくよう指導している。	100	93.4	38.3	55.1	0	6.6	○保護者評価が77.6%と2.7%増加した。家庭での日々の支援に効果が見られてきていることが伺える。 ▲教職員AB評価93.4%、児童評価77.3%であり、前期から教職員評価6.6%減少、児童評価6.8%減少の結果となった。教職員は、家庭学習の習慣が身につくよう指導はしているものの、一部の児童に家庭学習の習慣が身に付いていないことから、このような結果につながったと考えられる。	・家庭学習に取り組む習慣が身につくように、学年に応じた内容を提示する。個別に支援が必要な児童には、宿題の質や量を本人と相談し、自己決定させることで、自分で決めたことを最後までやり切るよう指導する。 ・家庭学習強化週間では、家庭学習に進んで集中して取り組むできたかふり返り、達成感を全校に伝えることで、家庭学習の習慣づけを目指していく。また、3年生以上はい自学ノートを校内放送で紹介したり、児童玄関前に掲示したりすることで、質の高い学習を目指して取り組むよう指導していく。
		家庭で、宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。	84.1	77.3	47.7	29.6	15	7.7		
		お子さんは、家庭学習に取り組む態度が身についている。	74.9	77.6	33.8	43.8	16.7	5.7		
10	児童	子供たちが、お互いの良さや違いを認め合い、いろいろな友達と一緒に活動できるよう指導している。	100	100	61.1	38.9	0	0	○前期と比較するとAB評価が、児童アンケートは3.3%、保護者アンケートは2.6%上昇した。学級や縦割り班で様々な児童と関わる機会を設けたり、その様子を発信したりしたことが、評価の向上につながったと考えられる。 ▲児童アンケートのC評価は3.4%、保護者アンケートでは5.3%となっており、一定数の児童が「良さや違いを認め合うこと」を実感できていないことが伺える。今後は、全ての児童が他者との関わりを肯定的に捉えられるような工夫が必要である。	
		お互いの良さや違いを認め、いろいろな友達と行事などで一緒に活動している。	93.3	96.6	56.8	39.8	2.6	0.8		
		お子さんは、お互いの良さや違いを認め、いろいろな友達と一緒に活動している。	91.9	94.7	44.7	50	5.3	0		
11	児童	子供たちが、1校1プランに基づき、体力を向上できるよう指導している。	100	93.4	38.3	55.1	6.6	0	○教職員アンケート、児童アンケート共に、前期から継続してAB評価が90%を超えた。各学級で体育の時間を中心に、体を動かす機会を確保できたことが評価につながったと考えられる。 ▲前期と比較するとAB評価が、教職員アンケートでは6.6%、児童アンケートでは1.5%、保護者アンケートでは9.6%それぞれ減少した。季節的な要因により屋外での活動機会が減少したことが一因と考えられる。今後は、季節や天候に左右されない運動機会の工夫や、家庭・地域と連携した取組の充実が課題となる。	・3学期は、1月のなわとび運動旬間や「スポチャレ石川」などの取組を可視化し、児童が達成感や楽しさを感じられるような工夫を行っていく。また、教職員が積極的に声をかけたり、児童と一緒に体を動かしたりすることで、活動への参加意欲を高めていく。
		体育の授業や休み時間などに体を動かしている。	92	90.5	62.2	28.3	8.7	0.8		
		お子さんは、家庭や地域で体を動かしている。	86.3	76.7	43.8	32.9	16.7	6.6		
12	児童	子供たちが、地域への愛着がもてるよう地域の人・もの・ことを活用して、学習を進めている	100	100	55.6	44.4	0	0	○2学期はジオ学習を進めてきたことで、職員も家庭も地域学習について肯定的な意見が多くなってきている。 ▲アンケートを取った時期が、地域学習と離れていたことから児童の意識が下がっているのではないかと考えられる。	
		わたしたちが住んでいる地域について、体験などを通して学習している。	87.3	85.4	50.8	34.6	10.1	4.5		
		お子さんは、学習を通して地域への愛着をもっている。	84.6	90.8	34.2	56.6	7.5	1.7		
13	児童	子供たちによりよい教育を行うため、業務改善を意識して効率的に働いている。	100	94	50	44	6	0	▲前期学校評価では、上昇したポイントだが、2学期には取り組み内容が多く、日々の業務量が多くなっていることが原因だと考えられる。	・来年度へ向けて、行事や取り組みの時数を見直し、教務主任を中心に教育課程を作成する。
				0						
				0						